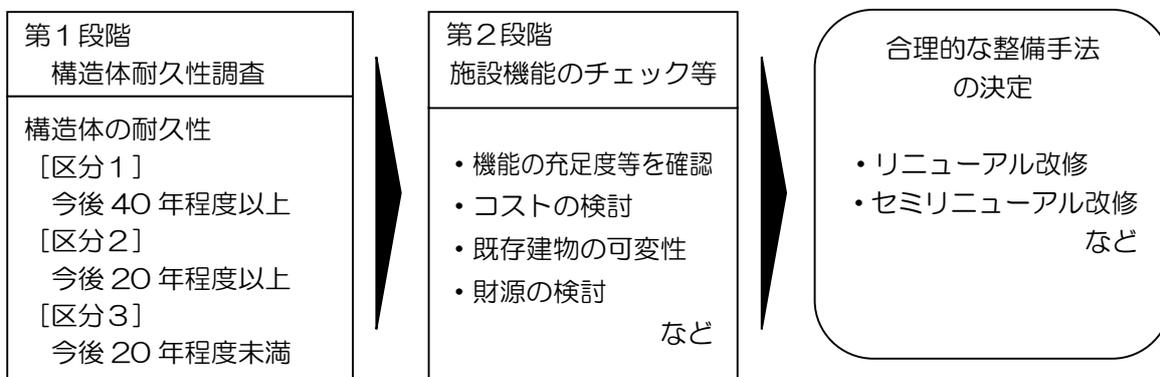


平成29年度 構造体耐久性調査について（概要）

1. 目的

施設の長寿命化に向けて、この先どのくらいの期間、建物を使用することができるか構造体の劣化の程度からその耐久性を調査しました。

2. 長寿命化に向けての検討の流れ



3. 調査対象施設

概ね築40年程度の市設建築物を対象に調査を行っています。

今回は、平成29年度に構造体耐久性調査を行った355棟（学校162棟、住宅193棟）と平成27年度に建物の強度確認調査を行った6棟の調査結果について公表します。

4. 構造体耐久性調査結果

（単位：棟）

今後期待できる使用期間		学校	住宅	合計
区分1	今後40年程度以上	57	115	172
区分2	今後20年程度以上	105	76	181
区分3	今後20年程度未満	0	2	2
計		162	193	355

5. これまでに行った調査の全件数のまとめ

（単位：棟）

区分	今後期待できる建物の使用期間			合計
	40年程度以上	20年程度以上	20年程度未満	
学校	251	657	2	910
住宅	152	185	2	339
一般施設	65	65	0	130
計	468	907	4	1379

今回の調査結果により構造体の面からは、一般的にいわれている耐用年数60～65年程度よりも長寿命化が期待できるものがあることがわかりました。

今後、建物の機能の充足度、長寿命化等にかかるコストなどを検討し、施設整備を適切に進めていきます。

6. 建物強度確認調査結果

構造体耐久性調査において、耐震性能不足の恐れがあるとされたものを対象とした建物強度確認調査（耐震診断）を平成27年度に6棟実施し、構造体の耐久性を判定しました。そのうち、耐震診断による評価でⅡ－1となった2棟は、耐震対策を行いました。

【調査結果集計表】

施設名	棟	耐震診断による評価	今後期待できる建物の使用期間
西消防署押切出張所	庁舎	I	20年程度以上
港消防署南陽出張所	庁舎	I	20年程度以上
南消防署	庁舎	I	40年程度以上
緑消防署有松出張所	庁舎	Ⅱ－1	20年程度以上
名東消防署	庁舎	Ⅱ－1	40年程度以上
芝保育園	園舎	I	40年程度以上

評価 I : 概ね現行耐震基準程度の性能を有しており、原則として耐震対策の必要がない。

評価 Ⅱ－1 : 現行耐震基準程度の性能を満たさず、原則として耐震対策の検討の必要がある。

評価 Ⅱ－2 : 現行耐震基準程度の性能を満たさず優先的に耐震対策の検討の必要がある。